

太田市住民協議会（第1回）
議事概要

太田市



第1分科会

区分	第1分科会
コーディネーター	構想日本 政策スタッフ 田中 俊
日時	2018年7月14日(土) 午後3時10分～5時00分
場所	太田市役所 10階 10A会議室

主な論点

住民協議会の進め方

- コ) これから、ごみの減量化について議論していく。
群馬県は全国でもごみの排出量が多く、ごみを減らすためにどうするか、ごみを分けて資源化を進めるに、自分にできること、地域でできること、行政にしてほしいことなどについて話し合えればと思う。
第1回の今回は、趣旨説明、自己紹介、ごみの減量化に関する現状把握を行い、第2回以降は議論した内容を「改善提案シート」に記入し、議論した内容をまとめていく。また、第4回からは意見の集約に向けて進めていくこととする。

分別について

- コ) 自己紹介の中で、分別について、毎日のことだから難しいが、ごみが出ないよう工夫したり、出さないようスーパーを利用したりしているという話があった。太田市のごみの分別割合を数字で見ると、もえるごみの中には3割程度の資源が入っている。まだまだ分別の余地があるように思う。

地域での資源収集、ごみステーションの管理について

- コ) 何人かから、ごみステーションのカラス問題などにより、地域で工夫して倉庫を作って管理しているという話があった。
また、ルールどおりにごみが捨てられない住民もいるという話もあった。
地域でのごみや資源回収の実態について意見を聞かせてほしい。
- 委) リサイクル資源の集団回収について、尾島のすずかけ地区では、以前は町内会などで個別に倉庫を置いて回収し区の収入にしていた。今は地域でルールを守らない住民が多いため、地域の倉庫はクローズして行政センターの倉庫に持って行くようになっている。地区や町内会のコミュニケーションが取れないと難しいと感じた。地区の子供も減っている。
- コ) 他に過去に集団回収をやっていた方はどうだろうか。
- 委) うちの地区の集団回収は、家の前に新聞やダンボールを出しておくで車で地区の役員と子供で回収してくれるというもので、その回収した金額も学校から明細の報告がある。
- コ) 実施主体は、学校だろうか、町内会だろうか。学校に持って行くのだろうか。
- 委) 学校単位でやっていて、個人の家の前まで取りに来てくれるというものであった。
- コ) 父兄さんが中心で回収に来る。他の地区も同じだろうか。
- 委) 夏休み中に1年に1回育成会で回収に来る。でも1年に1回だと回数が少ないため家に置いておくのが大変。
- 委) 子供達が小学校の頃、地区の育成会やPTAで年2回、中学校は年1回夏休み7月末か8月に回収していた。子供達が各地区のごみステーションや学校に持つ

て行き、お年寄りやひとり暮らしの人などは、連絡すると自宅の前まで子供が取りに来てくれる。

- コ) 皆さんの住んでいる地区は、子供の人数は増えているだろうか。
- 委) 藪塚地区は住宅が増えているので、子供の数も増えている。育成会は200件もありマンモス化している。
- 委) 綿打地区も子供は増えていると感じる。市街化調整区域で家は増えないが今年は近隣だけで小学校に10人も入学した。
- 委) 孫が小学校の時は、バルマークを集めて子供が学校に持って行っていた。学校でも子供に誰が何点持って来たとか言うので、親は大変だった。
- コ) 太田市全体では、集団回収は増えているだろうか。
- 市) 回収量、団体数ともに横ばいとなっている。
- コ) 集団回収は小学校、ステーションは自治会が中心になって管理している状況のようだ。

現在、集団回収に関わっている人はいないので、是非近所の人に最近の状況を聞いてみてほしい。日本全体で、子供は減っているので昔とは変わっているかと思う。生活していれば、ごみも出るし日々の生活が写し出される、毎日どんな暮らし方をしているか普段から考えて次回意見を聞かせてほしい。

その他

- コ) 清掃センターを見学したことがある人（ごみを出しに行ったことも含む）。
- 委) （8人挙手）

- コ) 太田市が力を入れている集団回収に参加したことがある人。
- 委) （0人 ※現在）
（8人挙手 ※過去に参加したことがある）

第2分科会

区分	第2分科会
コーディネーター	市原市総務部 次長 高澤 良英
日時	2018年7月14日(土) 午後3時10分～5時00分
場所	太田市役所 11階 11A会議室

主な論点

住民協議会の進め方

- コ) みなさんは15歳以上の19万3千人の市民の中なから無作為で選ばれた1,300人で、その中から立候補された。150倍の中から選ばれた。
- なぜ無作為か。公募は比較的市民全体の考えというより一部の強い考えが優先されてしまう。無作為はごみについて関心の有る人・ない人、年齢も幅広くいろいろな意見が得られ意図しない中で話し合える。
- 考え方は、人まちまちということを通認識でもち、人の意見は否定しないで受け入れることとしてほしい。
- この協議会では、大きな結論を出すのではなく太田市としてどんな方向がいいのか考えたいと思う。対話(異なる立場でお互いを尊重し解決策をだす。市民・地域・行政それぞれの立場で何ができるか考える)を大切に、対話から生まれる気付き(住民や行政それぞれの立場で自ら何が大切かを理解する)を得ることが大切であり、そこから改善が生まれる。
- おしゃべりだと責任がない。議論はそれぞれの立場の主張になり平行線になる。人の意見は否定しないで受入れ、自分の意見は自由に発言し、気軽に真面目な話をしていきたいと思う。

分別、ごみの出し方について

- コ) 分別について、やらされ感があるという話もあったが、何か質問はあるだろうか。
- 委) ラップの刃(金属)の処分に困る。どのように出すのか。
- 市) 燃えないごみの袋で出してほしい。
- 委) それだけ捨てるのに、もえないごみの袋を買うのか。もえない物が溜まらない。牛乳パックは固くて開くのは大変。引きちぎってもいいのか。
- コ) 行政として、どうして牛乳パックは開いてほしいのか。
- 市) 量の問題。コストや運搬のため嵩(かさ)を減らしたい。また、汚れを落とすためである。
- 委) あと白色トレイと色つきトレイの分別に悩む。
- 市) 柄が少しでもあるものと、真っ白なトレイはリサイクルのルートが異なる。
- 委) 柄付きのトレイはプラスチックで出しているのか。
- 市) その他プラスチックで出してほしい。
- 委) 若い人は、ごみ袋に余裕がある状態でだしているように思う。注意するのともうかと思っているが。ほかのうちはどうなのかと思う。
- 市) 量ももちろんだが、ごみの量に見合った大きさの袋を買ってもらい出すのがいいと思う。小で間に合うのに大で出すのは買う側も、作る側にももったいない。3種類の大きさがある。

4Rについて

- 委) 4R(リフューズ・断る/リデュース・発生を少なく/リユース・繰り返し使う/リサイクル・再利用)の中でごみの分別、リサイクルという点で余分な物が多すぎる。世の中にごみを発生させない方法を考えることが1番の問題のように思う。
- コ) リフューズ、断わるということで何か心がけていることはあるか。ごみになる物を手にしない。
- 委) 会社で粉の塗料を作っている。粉は箱や袋に入っていてコンパクトでごみの量は少ない。液体の塗料はドラム缶だが再生することができる。どちらでとらえるか考え方がむずかしい。市民だけが考えても答えはでない。需要を減らしても供給がそのままではなにも変わらない。市民の考え方。事業者の考えかた、いろいろな見方をしなくてはならない。作る側・事業者側の努力もないとごみの減量にならない。
- コ) 市民として、ごみを出さない事業者を選ぶことができる。逆に事業者もごみを出さないように仕組みを変えてもらう。市民・行政・事業者も入って考えなくてはならない。みんながつながっている問題。

ごみ収集について

- コ) 市民として、ごみを出さない事業者を選ぶことができる。逆に事業者もごみを出さないように仕組みを変えてもらう。市民・行政・事業者も入って考えなくてはならない。みんながつながっている問題。
- 委) 家のそばにステーションがある。いつも14:30頃収集にくるが、なぜ8:30までにステーションにごみを出さなくてはいけないのか。いま、夏の時間帯はカラスや臭いがすごい。地区によって収集の時間帯を分けられないのか。
- 市) 去年は120か所ステーションが増えている。そうすると回収ルートが変わり、回収時間も変わる。ごみの量も毎回同じではない。量が多いと回収に時間がかかる。同じ時間に収集できる確約はできないので8:30を守っていただくことをお願いしなくてはならない。
- 委) アマゾンなどでの過剰包装は無駄だと思う。段ボールを有効に使えたらいいと思う。
- 委) それは破損防止だと思う。袋だけだと壊れるので箱で囲ってクッションを入れる。

ごみ出し難民について

- 委) 80代の高齢夫婦が近所に2組いる。車も運転できないのでプラスチックなど分別ごみや粗大ごみを持っていくことができない。プラスチックの分別ごみを生ごみ(もえるごみ)に入れるのは、仕方ない。高齢化が進むと歩いても持っていけないなどごみ出しのできない人が増えていく。旧3町は、生ごみは割と近所にステーションがあるが分別ごみはまわってこない。生ごみを出すところで分別ごみを出せるようになると思う。
- コ) すべてのごみステーションで、全部のごみをまかなえるわけではないようだ。

出せないものはスーパーや行政センターへ持っていかなくてはならない。これから高齢化でこのような問題はますます増える。ほかのみなさんは近所などでどうだろうか。

委) 姉が身障者だが、市営団地で一人暮らしで、ごみ出しができない。前橋市では登録すると個人宅の収集があると聞くが、太田ではどうなのだろうか。

市) 太田では通常のもえるごみでは個別回収をやっていない。戸別は粗大ごみだけ戸別収集。職員は家の中に入らないので、外に出しておいてもらうのが条件

委) 動けない方、ヘルパーが入っていればヘルパーが出している。

コ) 地域の助けあいでごみ出しができるか。行政でやるとそれなりの負担がかかる。

市) 今年度からシルバーセンターで、ごみに限らず 500 円で 1 作業 1 時間以内で手伝い作業をするという事業がはじまっている。

コ) 同じごみでもほかの部署でやっていることもある。一緒に伝えることで伝わることもあるのかなと思う。今回の気づきのひとつである。

その他

コ) この 1 年間のうちに市役所に来たことがある人。

委) (8 人挙手)

コ) 今までに清掃センターの見学をしたことがある人。

委) (4 人挙手)

コ) 資源回収団体に参加している人。

委) (6 人挙手)